

だいふくもち

田島征三 作

福音館書店 1977年 800円



怠け者のごさくの家の床下から、「あずきをくわせろ」という声が聞こえ、床をめくってみると大福もちがありました。あずきを大福もちの上に乗せてやると、こんまい大福もちをたくさん生みました。ごさくは、もちを売ってたちまち大金持ちになりましたが、欲を出しすぎたため、大福もちと一緒に消えてなくなるという少し怖いお話。生き生きとした方言の語り口と力強い絵がよく合っています。

たのしいふゆごもり

片山令子 作

片山健 絵

福音館書店 1991年 1200円



もりのこぐまとおかあさんが、ふゆごもりのための支度をしています。もりの動物たちと一緒に、きのみとり、はちみつとり、さかなとりやわたつみをします。おいしい食事をした後に、おかあさんはこぐまに、一緒に寝るためのぬいぐるみをつくってくれます。こぐまとおかあさんの愛情が、美しい秋の森の情景の中で、あたたかく描かれています。見開きいっぱいの秋の森、雪の情景が印象的な絵本です。

ちいさいおうち

ばーじにあ・りー・ばーとん 文・絵

いしいももこ 訳

岩波書店 1965年 1600円



ちいさいおうちは、しずかないなかの、りんごの木のある丘にたっていました。やがて、まわりは開発され、都会になり、ちいさいおうちは住む人もなく、見捨てられてしまいます。ところがある日、通りかかったおんなのひとが、ちいさいおうちをみて…。四季の変化と、年月の経過を、美しい絵でこまやかに描いています。田園生活の安らぎと幸せを、静かに力強くうたいあげた、古典的絵本の傑作です。